

地域経済の成長基盤強化を

～「食」、「観光」、「医療」の連携が鍵～

尾家 啓之

道北地域の景気は、全国よりもやや遅れて回復が始まったが、昨年後半には軌道に乗ったとみられる。しかし、最悪期は脱したとはいえ、景気が上向いていることを、なかなか実感できないとの声も多い。

なぜ実感できないか。経済の先行きに対する漠たる不安があり、この先の成長に対して自信が持てない、といった事情が背景にあると思う。この結果、企業や個人が、投資や消費を控えざるをえないということだと思ふ。成長期待の低下といった現象である。

成長の足かせとなっている悲観論については、きちんとその本質を理解すべきである。そして根拠ある悲観に対してはその原因を取り除く一方、根拠のない悲観に浸っている余裕などないことを肝に銘ずるべきだ。

その上で、わが国経済にとって、今最も必要なことは、成長基盤を強化させることである。そこでのキーワードは「イノベーション」だ。わが国では、「技術革新」などと訳される場合が多いが、その語感よりもはるかに幅広い概念である。すなわち、財やサービスを提供する全ての過程において、“新たな観点から改善し、進化させていくこと”とでも定義されよう。今ある需要に答えていくのみならず、新たな需要、潜在的な需要を開拓するための全ての新しい取り組みを意味する。

その際、金融の役割（目利き能力）も大事だ。これからの経済を支えていく素晴らしい芽（技術やノウハウ）を見出し、育てていくこと。現場に足を運び、経営者のロマン、ビジョンに耳を傾け、どのようにすれば実現できるか一緒に考えていくことが必要だ。

消費者を含め、いかなる経済主体においても、日々進化していくということは、価値の創造につながると思う。価値が創造されるところに需要が生まれる。消費者の場合、自分を進化させるために、自分に投資してみるのもいいかもしれない。

地域経済としては、当地が既に持っている強みを更に磨き、連携させていく方向でイノベートしていき、成長基盤を強化していくことが有効だと思っている。全国、全世界との対比でみた当地の強みは「食」（その前提としての農業、食品加工を含む）と「観光」、そして高度な「医療サービス」だ。

例えば、健診や治療を兼ねて道外、海外の観光客に滞在していただき、その間、地元の旬な食材を提供すると共にレジャーも楽しんでいただく。当地を健康増進のメッカにしようという取り組みで、「メディカル・ツーリズム（医療観光）」と呼ばれ、注目されている。海外、特にアジアからの観光客は今後間違いなく増えるだろう。

問題点やできない理由を挙げればきりが無い。まず、一歩前に踏み出し、課題を克服しながら実現していくことが大事だ。こうした営みも含めて、地域経済に活気が戻ってくることを心から期待したい。

以 上